

石油備蓄のあり方検討会（第2回）

議事要旨

○日時 令和5年12月14日(木)15:30~17:00

○場所 経済産業省別館11階1111会議室

○議題

- (1) 石油備蓄のあり方の検討について（事務局からの資料説明）
- (2) カーボンニュートラル（国内貯蔵）に関するJOGMECの取組（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構からの資料説明）
- (3) 自由討議

○議事概要

- ・ 事務局（資源エネルギー庁）から、資料3について説明。
- ・ オブザーバー（JOGMEC）から資料4について説明。
- ・ その後、自由討議の形で意見交換。委員、オブザーバーからの主な発言は次の通り。
 - 地政学的リスクについては依然として複雑化され、予測しがたい状況が起こることを念頭に備える必要がある。石油備蓄の役割は引き続き重要であり、有事の際にはエネルギー供給の最後の砦であり備蓄日数を減らす理由はないのではないか。
 - 現状の備蓄基地は、国内各地に分散して立地されているため有事の際には機動的に対応できるのではないか。
 - 国家備蓄を機動的に放出する観点では、栈橋の形状が重要である。また、「油種入替」についても引き続き実施する必要があるのではないか。
 - 備蓄基地の老朽化が進む中で、コスト合理化は引き続き対応していく必要があるのではないか。
 - 新燃料の備蓄については、新燃料の社会実装に向けた時間軸や流通経路のみならず、既存タンクを活用する場合と新設する場合の経済性も考慮する必要があるのではないか。